

梅桜桃李

「生まれ出ようとする鳥は、自らをとりまく一つの世界を破壊しなければならぬ」ヘルマン・ヘッセの言葉である。自ら殻を破り、翼を広げて飛び立つ鳥のように、決然と歩みを定めるべくその時に向けて、さあ現在ここで何ができるか——。世界中が、君を待っている。

次なるステージへと向かう6月に

6月は、世間的には「衣替え」の時期です。昨今の地球環境の変化から、一昔前よりもその時期は異なる様相もない訳ではありませんし、本校には「制服」というものがないので、なかなか目に見えて意識することもないかもしれません。

だからこそ、**季節感**というものを大切にしてみましょう。日々の生活に何の区切りもなく、漫然と過ごすようでは、四季の移ろいを感じたり、自分自身の心身の変化に気付くこともできないはずです。

衣替えの歴史を紐解くと、中国から伝わった「更衣」をもとにした平安時代の宮中行事が起源のようで、当時は旧暦の4月1日と10月1日に行われていたようです。更衣とは、気候に合わせて衣服を替えるという意味だけでなく、心身の穢れを払うという意味も含んでいたようです。当時の冬服から夏服への切り替えというのは、綿の入った冬服から綿を抜き、「**裕**」という裏地付きの着物に仕立て直すというものでした。このことから、4月1日の更衣のことを、「**綿貫の朔日**」と呼んだそうです。実は、実際に存在する珍しい名字に「四月一日さん」という方がいるそうですが、これは「わたぬきさん」と呼ぶそうです。また、当時は扇などの小物類についても夏用と冬用の使い分けがありました。例えば、冬用の扇子は**檜扇**（ヒノキ製）、夏用は**蝙蝠**（竹と紙製）といった具合です。

さて、皆さんはこの6月、どのような「衣替え」をしますか？

1年生は、高校に入学して2ヵ月が過ぎたところですね。高校生活には慣れてきたでしょうか。逆に言うと、どこかで“慣らされている自分”を感じることはありますか？

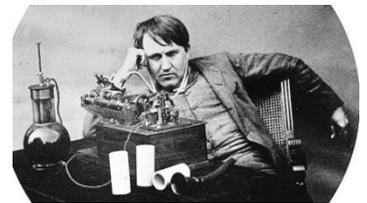
2年生は、文理選択後の新クラスでの生活はどうでしょうか。面談や授業を通して、自分自身の今後の指針を見出すような機会は、これまでにありましたか？

3年生は、言わずもがな、といったところでしょうか。「**運動部は学校に活気を与え、文化部は学校に気品をもたらす**」とはよく言ったものですが、それぞれの部活動において6月で引退する人もいれば、まだまだ活動を続ける人もいるでしょう。そんな皆さん一人一人は今、何を想いますか？

6月は、まずもって**前期中間考査**があります。これを意識しない福高生はいないでしょう。どうぞ、“目の前の一問”に最後までこだわって取り組んでほしいと思います。そうした後で、もっと先にある何かに気付くこともあるはずで、きっと。

「我々の最も大きな弱点は、諦めることにある。成功するための最も確かな方法は、常にもう一度だけ挑戦してみることだ。」

…“発明王”ことトーマス・エジソン（右写真）の言葉



もし、何か新しいことに挑戦したい気持ちがうまれたのであれば、諦めずにやってみましょう。

「もっとも平安な、そして純粋な喜びの一つは、労働をした後の休息である。」

… 哲学者・イマヌエル=カント（右絵）の言葉

労働だけでも休息だけでもダメで、労働をした後の休息というのが重要なですね。自分の中でのメリハリやON/OFFを大切に、この6月を過ごしてほしいと思います。



Do your best !